

『ゴルフとは、自らを自らで励ますこと。』



バリューゴルフ
VALUE GOLF
www.valuegolf.co.jp

2018、2019のストーリー

PGAツアー（全米プロゴルフツアー）は、我が国とは異なり、10月から新年度を迎える。8月に男子ツアーの上位のランキング選手で争うプレーオフ選手権の4試合を終えて、息をつく暇もなく、新しいシーズンに突入する。各選手にとっては、この間、基礎体力作りのトレーニングや、メンタル面でのチェック、あるいは家族サービスなどのいわゆる休暇や、オフの時間もない。しかし、賞金ランキングの上位選手やポイントランク上位の選手は、年内特に、11月から12月にかけて、1カ月から2カ月程度の休暇を取る。1月からのソニーオープンから始まる1年間の試合スケジュールを組みながら、英気を養うことが多い。

今年、残念ながら未勝利に終わった松山英樹選手も、秋の国内ツアーに参加することが現時点では決定している。ゴルフというスポーツが、他のスポーツと比べて、過酷だと言われる理由は、色々挙げられるが、なんといってもチームプレーではなく、審判もなく、それぞれが定められたルールとマナーで4日間を戦い抜き、加えて、雷や濃霧や大雨でも降らない限り、4日間で50キロ近い距離を歩き抜くことにある。

今期の一番の話題は、この競技にカムバックしてきたタイガー・ウッズであるの言うまでもない。腰と膝の手術とリハビリを乗り越え、

さらにはプライベートなアクシデントを克服し、先ほど述べたプレーオフ選手権で見たカムバックした姿は、世界中のゴルフファンを感動の渦に巻き込んだ。世代交代したと言われる若手の選手たちの尊敬と同年代プレーヤーの友情を目の当たりにしたテレビの前のファンも多かったと思う。この勝利によって、来年の4月から始まるマスターズ、全米オープン、全英オープン、全米プロ選手権の4つのメジャートーナメントの柱は、タイガー・ウッズを中心に回っていくことになるだろうと思う。なぜならば、タイガー・ウッズ自身も、そしてゴルフ市場も彼の向かう方向が、ジャック・ニクラウスのメジャー通算18勝に到達するかどうかにかかわらずだ。

不可能と言われたカムバックは、ゴルフの神様もたらした奇跡と、彼の強い意思という必然の結果である。



戸張 捷 Sho Tobaru

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業（現SRIスポーツ）に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデュース、コンサルティングなども手掛けている。